

第2回 四大学連合文化講演会

環境・社会・人間における「安全・安心」を探る
ー安全で安心の出来る社会ー

～学術研究の最前線をやさしく解説する (Part2) ～

講演者プロフィール

TOP

講演者プロフィール

講演要旨

アクセス

参加申込

リンク

原 亨和 (はら みちかず)



1965年生まれ。東京工業大学大学院修了。理学博士。現在、東京工業大学応用セラミックス研究所教授。専門は触媒。化学資源の生産、バイオフューエル合成を一新する触媒の開発に成功し、この触媒の実用化開発を進めている。5th Scientific American 50受賞 (2006年)ーサイエンティフィックアメリカンが選んだ世界のベスト50研究者の11位。2007年からは神奈川科学技術アカデミー創造展開プロジェクト「エコ固体酸触媒」のプロジェクトリーダーを兼務。

URL: <http://www.msl.titech.ac.jp/~hara/>

渡辺 努 (わたなべ つとむ)



1959年生まれ。ハーバード大学Ph.D. (経済学)。日本銀行エコノミストを経て、現在、一橋大学経済研究所教授。専門は、金融政策、企業金融、国際金融。産業構造審議会基本政策部会委員などを務める。2006年度より学術創成研究「日本経済の物価変動ダイナミクスの解明：ミクロとマクロの統合アプローチ」の研究代表者を務め、一橋大学内に物価研究センターを設立 (<http://www.ier.hit-u.ac.jp/~ifd/>)。

URL: <http://www.ier.hit-u.ac.jp/~watanabe/>

小川 佳宏 (おがわ よしひろ)

1962年生まれ。京都大学医学部卒業 医学博士。京都大学助手を経て、2003年より現職。専門は内科学・内分泌代謝学。メタボリックシンドロームの成因の解明と新しい治療戦略の開発を目指した分子医学的研究。日本内分泌学会専門医・指導医、日本糖尿病学会専門医・研修指導医。日本内科学会奨励賞、日本肥満学会賞、日本内分泌学会研究奨励賞、高峰譲吉研究奨励賞、井村臨床研究奨励賞、日



本臨床分子医学会学会賞等受賞。

URL : <http://www.tmd.ac.jp/mri/prm/index.html>

黒木 英充（くろき ひでみつ）



1961年生まれ。東京大学大学院修士課程修了。学術修士。現在、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授。1980年代末よりシリア，トルコ，フランスなどで近代シリアに関する歴史学的文書調査に従事。レバノンの「中東研究日本センター」長を兼務。主な研究テーマ：中東地域における異教徒間関係の変容。著書等：The Influence of Human Mobility in Muslim Societies（編著 London & New York, 2003）、『「対テロ戦争」とイスラム世界』（共著 岩波新書，2002年）等。

URL : http://www.tufs.ac.jp/common/is/kenkyu/soran/kuroki_hidemitsu.html

第2回 四大学連合文化講演会

環境・社会・人間における「安全・安心」を探る —安全で安心の出来る社会—

～学術研究の最前線をやさしく解説する (Part2) ～

講演要旨

「持続可能な社会のための資源・エネルギー生産」
東京工業大学応用セラミックス研究所教授・原 亨和

我々が生存し続けるためには、可能な限り環境に与える負荷を低減して化学資源とエネルギーを生産することが必要不可欠である。しかし、我々が気にも留めないこと、良いと思っていることが実際には大きな環境負荷となっていることが多い。本講演では資源とエネルギー生産で普段は見えていない大きな危機、そしてその危機に立ち向かう科学技術を広く公平な視点で考察する。

「バーコードから見た物価安定社会」
一橋大学経済研究所教授・渡辺 努

バブルの膨張と崩壊は人々の人生設計を大きく狂わせた。その衝撃の大きさは戦争にも匹敵するほどである。今後、こうした過ちを繰り返さないためには、モノの価格がどのように変化するかを正確に理解する必要がある。2006年度に設立された一橋大学物価研究センターでは、数十億件の価格データを収集し、その変動の仕組みを解析する作業を行っている。その主要な研究成果を紹介したい。

「脂肪組織の驚異とメタボリックシンドローム」
東京医科歯科大学難治疾患研究所教授・小川 佳宏

動脈硬化の前駆段階であるメタボリックシンドロームの基盤病態として内臓脂肪型肥満、特に、脂肪組織の生物学が注目されている。肥満の脂

TOP

講演者プロフィール

講演要旨

アクセス

参加申込

リンク

肪組織では、脂肪細胞の肥大とともに血管新生やマクロファージの浸潤、アディポサイトカイン産生調節の破綻がもたらされ、「脂肪組織リモデリング」とも言うべきダイナミックな変化をきたしている。脂肪組織の驚くべき多面性を解き明かすことにより、全身臓器の機能障害を特徴とするメタボリックシンドロームの成因の解明と新しい治療戦略の開発が期待される。

「『新たな戦争』の時代における人間の安全と安心：アジア・アフリカからの視点」

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授・黒木 英充

9/11事件以降、世界は新たな戦争の時代に突入したといわれ、より確かな「安全」を求めて社会の制度的な改編が進んできた。しかしこれにより人々は「安心」を得られるようになっただろうか。アジア・アフリカ、特に中東は様々な戦争・紛争の舞台となってきたが、そこで人々は安全や安心をどうとらえているのか、信用をどう構築しようとしているのか。こうした問題をめぐり、新たな学問的取り組みが必要とされている。
